



LIBTAYO®




リブタヨ[®]による治療を
受けられる
子宮頸がん患者さんへ

監修

独立行政法人国立病院機構四国がんセンター
婦人科 手術部長 竹原 和宏 先生





リブタヨ[®]による治療。
それは、あなたが本来持っている免疫を
うまく利用する治療法です。
この冊子で正しい情報を知ることが、
治療を継続する上で
心の支えとなれるかもしれません。
もし不安を感じる事があれば、
ひとりで抱え込まずに
主治医の先生や医療スタッフ、ご家族、ご友人に
話してみることも大切です。
そして、リブタヨ[®]が
あなたの治療の一助となることを願っております。

目次

リブタヨ®による治療について……………	5ページ
特に注意すべき副作用……………	7ページ
副作用と思われる症状を感じたら……………	13ページ
気になること、確認したいことをまとめましょう……………	14ページ

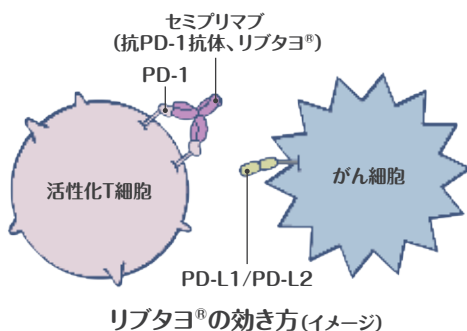
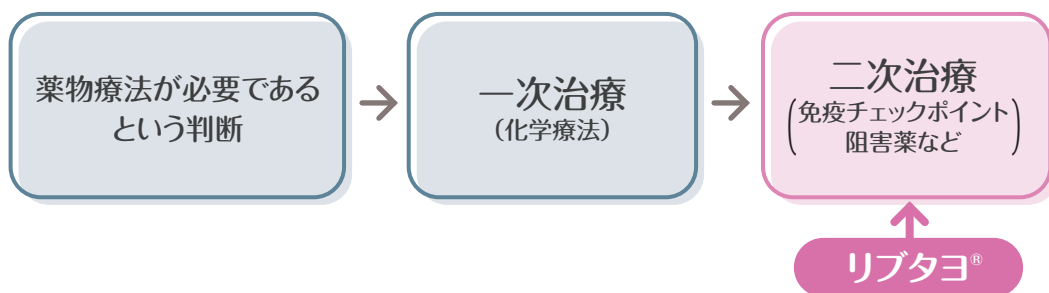


リブタヨ[®]による治療について①

リブタヨ[®] (成分名:セミプリマブ)は、免疫チェックポイント阻害薬です。
再発や転移のある子宮頸がん患者さんの二次治療薬として使われます。

●リブタヨ[®]について

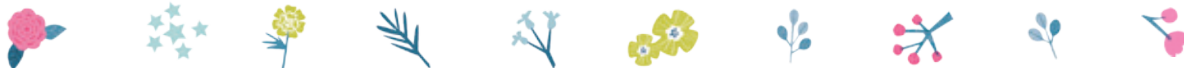
リブタヨ[®]はPD-1というたんぱく質にはたらく免疫チェックポイント阻害薬です。
再発や転移のある子宮頸がん患者さんで、化学療法後に病気の進行がみられたか、再発した場合に投与できます。



PD-1は免疫細胞(T細胞)の表面にあるたんぱく質です。PD-1が、がん細胞がもつたんぱく質(PD-L1)と結合すると、T細胞のはたらきにブレーキがかかり、免疫反応(がん細胞を排除するちから)が弱まることになっています。

リブタヨ[®]は、PD-1に結合することで、がん細胞のもつPD-L1がPD-1と結合するのを防ぎ、T細胞ががん細胞を排除できるようにします。

MEMO



リブタヨ[®]による治療について②

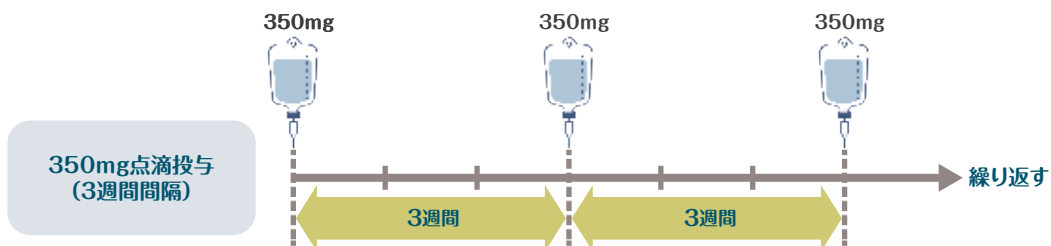
●投与方法



リブタヨ[®]は点滴で投与する薬です。
通常、1回350mgを30分かけてゆっくと点滴
します。

●投与スケジュール

投与は3週間ごとに行います。



投与日のスケジュールの例:午前診療の場合



治療の当日とその後数日間は、体調の変化に気を付けられる
よう、できるだけ仕事や用事を調整しておくとういでしょう



特に注意すべき副作用①

リブタヨ®の投与中または投与後に、以下のような特に注意が必要な副作用があらわれることがあります。

副作用を知り、早めに症状に気が付くことで、適切に対処することができます。

特に注意が必要な副作用	解説ページ
● インフュージョンリアクション	8ページ
● 大腸炎/重度の下痢	8ページ
● 筋炎/横紋筋融解症/重症筋無力症	9ページ
● 心筋炎/心膜炎	9ページ
● 腎機能障害(尿細管間質性腎炎等)	9ページ
● 内分泌障害(甲状腺機能障害/副腎機能障害/下垂体機能障害)	10ページ
● 1型糖尿病	11ページ
● 重度の皮膚障害	11ページ
● 神経障害(ギラン・バレー症候群等)	11ページ
● 脳炎/髄膜炎	11ページ
● 肝不全/肝機能障害/肝炎	12ページ
● 間質性肺疾患	12ページ
● 静脈血栓塞栓症	12ページ

以降のページで各副作用の症状などを説明しています。
症状があらわれた場合には病院に相談しましょう



特に注意すべき副作用②

●インフュージョンリアクション

薬の投与中または投与を開始してから当日または翌日にあらわれる症状の総称です。

以下の症状があらわれることがあります。

症状 ▶ ●発熱 ●寒気 ●頭痛 ●じんましん ●息苦しさ ●めまい など

多くは軽度ですが、重症化すると命にかかわることがあるため注意が必要です。

投与中や投与後にかかわらず、気になる場合は担当の医師に相談しましょう。

治療後の数日間は体調の変化に気を付けましょう



●大腸炎/重度の下痢

大腸の粘膜に炎症が起こり、以下の症状があらわれることがあります。

症状 ▶ ●下痢 ●吐き気 ●血便 ●腹痛 など

症状が悪化すると、粘膜に穴があいてしまったり(穿孔)、大腸の血流が悪くなったりすること(腸管虚血)があるため、症状があらわれたらすぐに対処することが大切です。

自己判断で下痢止めなどの薬を使わないようにしましょう



● 筋炎/横紋筋融解症/重症筋無力症

筋肉に炎症が起こり、以下の症状があらわれることがあります。

症状 ▶ ● 痛み ● 脱力 ● こわばり ● しびれ ● 赤褐色（コーラ色）の尿* など
*横紋筋融解症に特徴的な症状

重症化すると命にかかわることがあるため、症状があらわれたらすぐに対処することが大切です。

● 心筋炎/心膜炎

心筋や心膜に炎症が起こり、以下の症状があらわれることがあります。

症状 ▶ ● 疲労 ● 息切れ ● むくみ ● 動悸 など

急速に進行する重度の心不全や、重度の不整脈がみられる場合もありますので、注意が必要です。

● 腎機能障害(尿細管間質性腎炎等)

腎臓に炎症が起きて、腎臓のはたらきが低下することがあります。

腎臓のはたらきが低下し、老廃物などを尿として体の外に排出できなくなると、以下の症状があらわれます。

症状 ▶ ● 尿の量が減る ● むくみ など

症状が進行すると、命にかかわることがあるため、注意が必要です。

定期的に腎臓の機能に異常がないか検査を行います



特に注意すべき副作用③

● 内分泌障害(甲状腺機能障害/副腎機能障害/下垂体機能障害)

身体のさまざまな機能を調節・制御するホルモンの分泌障害

① 甲状腺機能障害

甲状腺から分泌されるホルモンの量が上昇したり、反対に低下することがあります。ホルモンの量の上昇や低下に伴い、以下の症状があらわれます。

症状

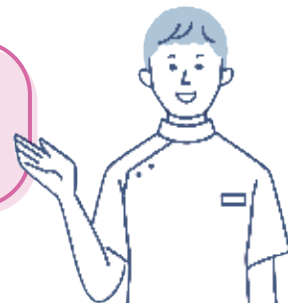
〈ホルモンの量が上昇した場合〉

- 動悸
- 発汗
- 手指のふるえ
- 体重が減る

〈ホルモンの量が低下した場合〉

- 食欲の低下
 - 便秘
 - 体重が増える
- など

定期的に甲状腺の機能に異常がないか検査を行います



② 副腎機能障害

副腎から分泌されるホルモンの量が低下して、血糖値が下がることがあります。血糖値が低下すると、以下の症状があらわれます。

症状

- だるさ
 - 食欲の低下
 - 吐き気
- など

③ 下垂体機能障害

脳の下垂体から分泌されるホルモンは、さまざまな臓器からのホルモン分泌をコントロールしています。下垂体ホルモンの量が低下すると、他の臓器からのホルモン分泌も低下して、以下の症状があらわれることがあります。

症状

- 頭痛
 - 疲れやすい
- など



● 1型糖尿病

膵臓にあるβ(ベータ)細胞が壊れることで、血液中の糖を細胞内に取り込むためのホルモン(インスリン)が分泌されなくなり、血糖値が上昇することがあります。

血糖値が上昇すると、以下の症状があらわれることがあります。

症状 ▶ ●いつもより水分の摂取量が増える ●尿の量が増える など

β細胞は一度壊れてしまうと元に戻らないため、できるだけ早く症状に気が付き、治療を始めることが大切です。

インスリン製剤を使った治療をしっかりと行えば
血糖値をコントロールすることができます



● 重度の皮膚障害

皮膚に以下の症状があらわれることがあります。

症状 ▶ ●湿疹 ●発熱 ●かゆみ ●水ぶくれ ●全身の赤み
●目や口などの粘膜のただれ など

多くは軽い症状ですが、ごくまれに命にかかわる全身性の皮膚症状があらわれることがあるため、こまめに皮膚の状態を確認することが大切です。

特に、高熱とともに目などの粘膜がただれたり、全身に赤みや水ぶくれがある場合は、重篤な皮膚副作用となる可能性があるため、注意が必要です。

● 神経障害(ギラン・バレー症候群等)

神経に炎症が起こり、以下の症状があらわれることがあります。

症状 ▶ ●両手や両足の力が入らない ●しびれ感
●飲み込みにくい ●しゃべりにくい など

進行すると、顔の筋肉がまひする、呼吸が苦しいなどの症状も起こることがありますので、症状があらわれたら早い段階で担当の医師に相談してください。

● 脳炎/髄膜炎

脳やせき髄に炎症が起こり、以下の症状があらわれることがあります。

症状 ▶ ●発熱 ●頭痛 ●吐き気 ●意識障害 など



特に注意すべき副作用④

●肝不全/肝機能障害/肝炎

肝臓に炎症が起きて、肝臓のはたらきが低下することがあります。

以下の症状があらわれることがありますが、症状がでないこともあります。

- 症状 ▶ ●だるさ ●発熱
●食欲の低下 ●黄疸(白目や皮膚が薄い黄色になる) など

重症化すると命にかかわることがあるため、定期的に検査をして、肝臓に異常がないことを確認することが大切です。

薬の服用後に肝臓に異常があらわれた経験のある方は
あらかじめ担当の医師に伝えましょう



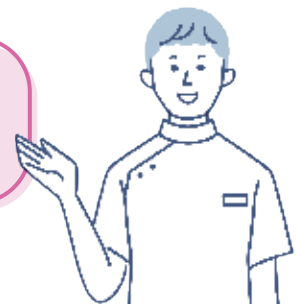
●間質性肺疾患

間質性肺疾患があらわれることがあります。間質性肺疾患は、肺の酸素を取り込むための小さな袋(肺胞^{はいほう})の壁に炎症が起こり、袋の壁が厚く硬くなることです。肺胞から体内に酸素を取り込みにくくなり、以下の症状があらわれます。

- 症状 ▶ ●^{からせき}空咳 ●息苦しさ など

命にかかわることがあるため、できるだけ早く症状に気が付き、対処することが大切です。

風邪かな? と思ってもそのままにせず
少しでも気になることがあれば担当の医師に相談しましょう



●静脈血栓塞栓症

血のかたまり(血栓)が血管につまる疾患で、以下の症状があらわれることがあります。

- 症状 ▶ ●痛み ●腫れ ●むくみ ●息苦しさ* ●胸の痛み* など
※肺の血管の場合に起こる症状



副作用と思われる症状を感じたら



次のような症状を感じたら、
病院に電話をして今後の対応を相談しましょう

- ボーっとして、集中力が落ちた感じがある、眠気が強い
- 動悸やめまい、ふらつきがある
- だるさを強く感じる、だるくて動けない
- 明らかに咳が増えた、息切れを強く感じる、安静にしているも息が苦しい
- 下痢が続いている、便の色が明らかにいつもと違う
- 異常に喉が渇く、多飲・多尿である
- 皮膚の広い範囲に赤いぶつぶつがある、同時に目の充血や口の中が赤く腫れている
- 筋肉痛が続いており、だんだん強くなっている

● 緊急時の連絡先

● 病院名

● 担当医の名前

● 電話番号

日中

夜間・休日

夜間や休日の連絡先、電話が繋がらなかった際の
対処法などを確認しておきましょう



● 困ったときの連絡先

● 病院名

● 担当医の名称

● 電話番号 日中

夜間・休日

● 病院名

● 担当医の名称

● 電話番号 日中

夜間・休日

● 病院名

● 担当医の名称

● 電話番号 日中

夜間・休日



